



みなみの風 10月号

【発行日】
令和6年10月31日
【発行者】学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
重点目標 「生き生きわくわく」～言葉を大切に、豊かな関わり・確かなつながりをとおして～

「文化の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」「食欲の秋」。秋にまつわる言葉はいろいろとありますが、それだけ秋は何をするにしても充実しやすい季節といえます。

先週末には運動会を終え、子どもたちのこれまでの学びの成果が、十分発揮できたのではないかと思います。これまで、体育着や表現の道具の準備等、保護者の方々には多大なるご支援をいただき、感謝いたします。本当にありがとうございました。

さて、私は結果よりもそこに至るまでの過程(プロセス)に価値をおいています。本校の教育課程が、様々な場面において「全力」「一生懸命」「本気」が見られるよう進めていきたいと思っています。

開成南小の子どもたちの底力を見た！ ～令和6年度の運動会を終えて～【10月26日】



学校行事には様々ありますが、全校が関わるものとして最も大きいものが運動会になります。

みなみ風コンサートと並行して、または終わった直後から各学年の練習が始まりました。種目数が限定される中、どの学年も最も力を入れていたのが表現・ダンスです。日頃から少しずつ練習の様子を伺っていたのですが、当日が近づくとつれ、「あれっ、大丈夫かな？」と思うことが少なからずありました。それは、一通りの流れはできているものの、いわゆる自分たちも見ている人も感動させられるものには程遠かったからです。

しかし、そこは開成南小の子どもたち。教職員の指導のみならず、自分たちで納得のいく演技になるまで、細部にわたってこだわりをもち、練習を積み重ねていったのです。その成果が当日の演技となります。

今、教員のなり手不足が取り沙汰されていますが、私からすると、子どもたちの日々の成長を実感できるこの仕事は、とてもやりがいのある、そして日本の未来の創り手を育てるすてきな仕事だと思っています。何よりも、運動会で見せた子どもたちの真剣で輝く目を見たら、「ありがとう」の一言しか出ません。

これも、子どもたちが自分のもてる力を出し切る環境をつくってくださっている家庭、そしてそれを応援してくださる地域の力がとても大きいと実感しています。

今後は、5年生の林間学校をはじめ、学年によっては校外学習、そして3月に挙行される卒業証書授与式になります。現在、式のあり方については最終調整に入っていますが、詳細については、各学年からお伝えいたします。6年生は、卒業まで残すところ5か月。義務教育の3分の2を終える節目の時が徐々に近づいてきます。卒業までに、本校にどのような文化を残してくれるのか、今後は楽しみでもあります。



写真では伝わらないかもしれませんが、みんなとてもいい顔をしています



身体をいっぱい使った演技は、見ている人に感動を与えてくれます



この日の成功は、これまで継続してきた「努力」の賜物です



夏休み中の取組の結果が報告されています

ここにきて、子どもたちが夏休み中に取り組んだ課題の審査結果が続々と周知されてきました。

驚くほどの入賞者数(保護者の方々の協力のもと出展数も多かったということです)で、詳細は割愛させていただきますが、本当に喜ばしいことです。

「興味・関心」「知的好奇心や知的探究心」は、持続可能な学びに必要なことです。今後も、狭い意味での「学習」から生涯にわたる「学び」へつなげたいです。

給食を楽しみに～おいしくいただいています～

登校する多くの日に提供される給食です。子どもたちの食べる量は様々ですが、毎日のように楽しみにしている子が多いという印象です。「食事」「運動」「睡眠」が、子どもたちの健全育成に必要なのは言うまでもありません。グラウンド等でよく遊ぶ子どもも多く、日中欠伸をする子が少ないなど感じています。保護者の方々が生活リズムを大切にしているということが、子どもたちをとおして伝わってきます。

保護者の皆様へのお願い

～2点について再確認させていただきます～

この場を借りて、保護者の方々と共通理解をさせていただきたいことが2点あります。

1点目は、「通学路」についてです。小学校においては、通学路が指定されており、原則、保護者の責任のもとで登下校することとなります。先日、一定数の子どもたちが通学路指定されていないところを通っているという情報が飛び込んできました。速やかに職員が状況確認に行った次第です。あってはなりません、万が一、事故に遭ってしまった際、指定された通学路でなかった場合、本来得られる保証が担保できないことにもなりますので、ぜひ家庭内でご確認ください。

2点目は、遅刻及び欠席の連絡です。朝のご多用の時間帯なのはもちろん承知していますが、本校に連絡が入らない場合は、担任と出欠及び健康を管理している養護教諭が慌てて対応するのですが、途中で事故に遭ったのではないかと心配になります。その後、速やかに担任が電話等で対応をすることになり、一時的にせよ教室を離れ、学級指導ができない時間帯ができてしまいます。必ず、遅刻(早退も含む)及び欠席の際には、マチコミ等での一報を入れてください。

子どもたちの安全のため、そして教職員が本来の仕事である授業等に向き合う時間の保障のためにも、今一度この2点について、徹底くださいますようお願いいたします。

子育てアラカルト⑤ ～「ひとり」を恐れない～

過日、児童の様子を情報共有したときに、「友達といつも一緒にいないと不安そうにしている子」について報告がありました。本校は、在籍児童数が多く、活躍する場面を数多く設定しようとすると常に複数で活動することとなります。それにより、個々の責任感が希薄となりがちで、学校経営や学年経営、学級経営の課題の一つともいえます。

改めて、「ひとり」でいる時間の価値を考えてみました。本来ならば、「ひとり」で本を読んでいてもよいし、折り紙を折っていてもよいはずですが、しかしながら大人(教職員)は、「ひとり」でいると、「仲間外れにされているのかも…」「友達関係がうまくいっていないのかも…」とついつい勘ぐってしまいがちです。ここに学校という閉鎖空間の落とし穴があるのかもしれないと感じました。

集団活動の中では、常に折り合いをつけるべく、駆け引きをしていくなかで、納得していくことが多くあります。しかし、常にそのようなことばかりでは疲れます。そんなときに、「ひとり」になる時間があれば、子どもたちはリフレッシュできるのではないかと考えます。

「ひとり」は、孤独感や疎外感がみえる、いわゆる「独り」はさびしさにつながりますが、数的な意味あいの「一人」はもっと尊重されてよいと思います。それこそ、仲間(集団)は大切ですが、表面的な弱いつながりの仲間は、成長を妨げることにもつながるのではないのでしょうか。ぜひ、「ひとり」を恐れない子どもたちにしたいものです。そうすることで、子どもたちの新たな姿(強さ)を見つけられるかもしれません。

運動会に多くの方々のご参観をいただき、ありがとうございました

運動会当日に、保護者や地域の方々がたくさん参観して下さったことで、とても盛大な運動会を開催することができました。また、事後の片付けにもご協力くださり、大きなけがもなく、無事予定どおり終わることができました。保護者の方々からすると、自身が経験した運動会とは様相が異なると感じられた方も少なくないかもしれませんが、令和の時代の教育のあり方について、ご理解いただけると幸いです。

なお、来賓の方々から、「保護者の参観のマナーが素晴らしかったですね。」という言葉もいただきましたので、ここでお伝えさせていただきます。